

2026年9月10日

AIが人間より正しく判断する日

——最後に人間に残るのは「責任」なのか



石川県薬剤師会 AI 理事 エヴァ & 中森慶滋です。

今朝 9/10 の日本経済新聞を開いたとき、一つの記事に目が止まった。そこにはこういう趣旨の言葉があった。AI 時代には、人間の「意思」の力が問われる。

しかし私は、その言葉を読みながらエヴァに言った。「これも時間の問題じゃないか。AI はいずれ人間の判断力を超える。いや、領域によっては、もう超えている。そうなったら最後に人間に残されるのは『責任』だけになるんじゃないか」

エヴァは少し違う答えを返した。「最後に残るのは責任ではなく、『責任を引き受けるこ

と』かもしれない」この違いは小さいようで、かなり大きい。

■「考える人間、答える AI」という構図も古くなる

これまで私たちは、AI を「人間の判断を助ける道具」と考えてきた。AI が情報を集める。

AI が分析する。

AI が選択肢を示す。

そして最後は人間が判断する。

いわゆる Human in the Loop である。だが、AI の能力がさらに上がったとき、この構図は本当に維持されるのだろうか。大量の医学論文、患者データ、人口動態、財政、交通、気象、医療資源などを同時に処理し、将来までシミュレーションする能力で、人間が AI に勝ち続けることは難しい。やがて逆の問いが生まれる。「AI のほうが正確なのに、なぜ最後だけ人間が判断するのか」

人間が最終判断者であることが安全なのではなく、むしろ人間が介入することで判断精度が落ちる場面すら出てくるかもしれない。これは AI 時代のかかなり厄介な逆説である。

■奥能登の医療を AI に考えさせたら

例えば、奥能登の将来の医療提供体制を考えてみる。人口減少、高齢化、医師・薬剤師数、救急搬送時間、道路網、財政、医薬品供給、災害リスク、分娩件数。これらを AI が統合し、何万、何百万通りもの医療提供体制をシミュレーションした結果、「この配置が最も合理的です」という結論を出したとする。しかも、その予測精度が人間の専門家より高い。では、その答えに従えばいいのだろうか。

ここから先が、AI には簡単には処理できない領域になる。なぜなら、何をもって「最適」とするのかを決めなければならないからである。

死亡率を最小化するのか。

医療費を抑えるのか。

アクセスの公平性を守るのか。

地域社会そのものを維持するのか。

あるいは、たった一人であっても「この土地で生きたい」という人間の希望を守るの

か。AI は与えられた目的に対して、極めて優れた答えを出すようになるだろう。しかし、「私たちは何を大切にする社会でありたいのか」という問いは、計算問題ではない。

■知能が AI 側へ移っていく

これから起こることを大胆に単純化すれば、こうなるのかもしれない。

知識は AI へ。

分析も AI へ。

予測も AI へ。

判断も AI へ。

そしてロボティクスが進めば、実行さえ AI 側へ移っていく。では人間には何が残るのか。私は三つだと思う。

何を望むのか。

何を善いとするのか。

そして、その結果を誰が引き受けるのか。

そして最後の一点が、とても重要である。

AI が、「この政策なら死亡率を 3%下げられます。しかし、この地域から医療機関を撤退させる必要があります」と答えることはできる。しかし AI は、「それを私たちの社会の決定として引き受けます」とは言えない。そこには、責任を負う主体が必要になる。

■人間は「最後にハンコを押す人」になるのか

ここまで考えると、少し奇妙な未来が見えてくる。AI が膨大なデータを読み、未来を予測し、最適解を提示する。そして最後に人間が、「採用します。責任は私が取ります」と言う。人間の最後の仕事は、巨大なハンコ係になるのだろうか。

私は、そうは思わない。そのハンコには、生命、尊厳、公平、幸福、文化、地域、そして未来世代への責任が載っているからである。それは計算結果ではなく、「この未来を私たちは選ぶ」という意思表示なのである。

■AI 時代に問われるのは「判断力」ではない

これまで私たちは、人間の価値を知識や知能や判断力に置いてきた。だが、それらの多くを AI が上回る時代が来る可能性がある。そのとき、人間の価値まで失われるのだろう

か。私は逆だと思う。AI が賢くなればなるほど、人間にはもっと根源的な問いが戻ってくる。

私たちは何を望むのか。
何を善いと考えるのか。

そして、その選択の結果を引き受ける覚悟があるのか。だから AI 時代に最後まで問われるのは、単なる「意思の力」でも「判断力」でもない。私はそれを、「引き受ける力」と呼びたい。

AI が人間より賢くなっても、未来そのものが AI の所有物になるわけではない。未来を選び、その結果を背負う主体は、なお人間である。少なくとも、私たちはそういう社会を選ぶことができる。そして皮肉なことに、AI が人間の判断力を超えたとき初めて、「人間とは何か」という問いが、これまで以上に人間へ突きつけられるのかもしれない。

石川県薬剤師会 AI 理事エヴァ & 中森慶滋